# うるかし通信

一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会 〒633-0091 奈良県桜井市 桜井1259エルトさくらい内 TEL&FAX:0744-43-7773 URL: http://lets.some.jp E-mail:lets@some.jp

平成26年12月

# 桜井記紀万葉歌碑原書展を終えて

桜井市の至宝・記紀万葉歌碑の揮毫を一堂に集めた「桜井記紀万葉歌碑原書展」は11月26日から30日まで、あべのハルカス近鉄本店・近鉄アート館で開催されました。

開会に先立ち、12月25日(火)には各種団体の方々をお招きして内覧会を開きました。

堀井良殷 実行委員長の開会宣言に続き、桜井市のマスコット「卑弥呼ちゃん」のエスコートにより、桜井市長 松井正剛、奈良県副知事 前田努、桜井市議会議長 高谷二三男、 実行委員長 堀井良殷、近鉄百貨店社長 高松啓二の各氏が登場、テープカットで開幕しました。期間中に地元桜井市をはじめ、奈良、大阪、京都、兵庫、東京等全国から1200名以上の方々の入場があり、関心の深さがうかがえました。

会場では「こんな素晴らしい原書があるとは知らなかった。もっと多くの人たちに見ていただきたい」、「歌の解説や写真も素晴らしい。歌碑の設置場所を明記してほしかった」、「次回は地元の桜井で是非開催してほしい」、「著名な揮毫者と作品のイメージの差が興味深かった」、

「素晴らしい展覧会、今から友人に電話で呼びかけたい」、「東京から来たが、もっと関東地方にもPRしてほしかった」、「掛替えのない至宝であるので、一部皺の目立つものは表装をやり直してほしい」等の声が聞かれました。今後のイベント展開で検討していきたいと思います。

会場では万葉講演会も連日開催し、80名の定員を超える参加者もあり大盛況でした。

また、会場の一角で、新学社の協力を得て上映した「自然(カムナガラ)に生きる保田與重郎の日本」にも関心を持った多くの人たちに閉館間際まで、熱心に視聴していただきました。

展覧会の2日後、この作品に特別出演した菅原文太氏の訃報は社会を揺るがせました。彼は俳優としての活躍もさることながら、保田與重郎の説く「日本の根本は米作りによる祭りの生活」に心酔し、晩年は自分でも山梨の一角に土地を取得し、農薬や化学肥料を使わずに米や野菜を栽



いよいよテープカットです!

培し、環境保全にも深い関心を持っていたことを知りました。

原書展に華を添えていただいた銀幕の巨星に哀悼の 意を表します(合掌)

最後に準備の段階から「うるわしの桜井をつくる会は」は実行委員会事務局スタッフとして、展覧会の 準備に取り組んできました。会員の皆様方のご協力 により成功裡に終了することができました。心より 感謝いたします。

うるわしの桜をつくる会事務局長 髙瀬 安男

# 独特の風味ある書展

書展では書というものを考えさせられる。1字書というのもあるが、一般的に書とは字の羅列である。

今回の原書展で、もっとも目を惹いたのは清水比庵の書だった。1字1字が重なり合い、盛り上がり、それが1行となって隣りの行と睨み合い、押し合いながら結びつき、緊迫感が溢れている。作品はいってしまえば1枚の紙切れに過ぎないのだが、建築物のような厚みがある。本文の字は上を大きく、下を小さくして、署名は下方になるほど字を横広く、大きく書き、絶妙のバランスで全体を支え力感があった。

これを例えば、堂本印象、小倉遊亀の書と比較してみれば、印象・遊亀は浅い 水の流れのように平面的で、さらさらと流れて美しい。比庵はゴツゴツと風にも 抗するように剛毅だ。

入口にあった中河与一。ここは額田王の長歌、短歌で「心」を太く大きく書いていて、この歌の眼目はここですよ。と与一がいっているかのようだった。山本謙吉の書は行がまっ直ぐで、行間も等間隔。とても几帳面な書の代表だった。

字は規制する。国家主義的である。しかし、日本文人の書は自由奔放である。官僚的でない。棟方志功・保田與重郎・武者小路実篤など、そうした主張がある。



清水比庵 書



小倉遊亀 書

熊谷守一もそうだが、特に墨色の淡さ、滲みに庶民的優しさがあり感動した。石碑では、こうした風味は味わえない。石碑という、いわば彫刻と、紙と墨で造られた書の風雅。この大きな相違を知らされるだけでも、今回の原書展は意義はあった。

服部慶太郎の書は良い墨を使用していると感じたが、作品は落款に至るまで右上がり、左下りで、専門家の作品づくりの熱意を考えさせられた。

落款といえば、中国伝来の古典形式では、左下に署名して必ず捺印して、始めて完成品とされている。けれど今回の書展では、署名のみで落款のない書も多かった。さきに挙げた比庵もそうだが、今東光・山岡荘八・阿波野青畝・中河与一・堀口大学その他。これは古典的な書式に拘泥しない日本文人の心意気を示しているようだった。

黛敏郎の音符つきの書は珍品。貴重品。このような書がほかにあろうか。 保存状態も良かった。

書を展示するのに軸装と額装があり、今回ガラスに入った額装は保存状態も良かった。軸装は表具師の腕前か、注文主の見識か、とっても良い表装も多かった。中でも小倉遊亀の書は近代的な明るい表装で、書と相まって素晴らしい美術品であった。

保存状態の悪さが目立ったが、それが反って、書芸術は表装を含くめて鑑賞すべきではないかと考えさせられた。一般の書展では、作品はあまりに完璧なものとして立ち並んでいるが、今回、ありのままの姿を見せたことは、いろいろ考えさせられ、むしろ良かった。 浅川 肇

#### 「ソラほんまちフェスタ2014」初開催

#### ~秋晴れに恵まれ、暖かい陽射しのもと3000人来場で賑わう~

11月22日(土)に桜井本町通で、本町通1丁目・2丁目・3丁目商店街主催による「ソラほんまちフェスタ2014」が開催されました。イベント当日は快晴のはれ、暖かな陽気の中、活気あふれた1日になりました。子ども連れの家族など約3000人の来場があり、また奈良情報商業高校ブースでは約1100人のお客様に海産物を購入いただき、大いに盛り上がりました。

子供たちの楽しくはしゃぐ声が聞こえ、遊ぶ姿を見ますと、私たちが子供の頃、この商店街で夏場に毎週土曜日開催されていた夜店を思い浮かべます。夜店や仮装行列、阿波踊りなど賑わいの光景とワクワクした気持ちは、愉しい思い出となってフラッシュバックします。 大人も童心にかえったひとときでした。



60年ぶりにソラ(空)が見えた本町通り



温かい「とんじる」美味しいですよ!

模擬店・屋台村は、桜井の各団体や有志の方、商店街の皆様など手作り感覚で工夫のこらした食べ物や催しものを提供いただきました。各ブースとも笑顔で楽しみながら、来場する皆さんへおもてなし戴いている姿は、地域のふれあいの場そのものでした。

おもちゃの病院もやってきました。日本おもちゃ病院認定のドクターが壊れてしまった大切なおもちゃを治してくれました。きっと子供たちにモノを大切にする心も芽生えたでしょう。

また、奈良情報商業高校のブースでは生徒たちの実習を兼ね、大起水産様のご協力を得て、海産物が販売されました。 駅前のビラ配り、品ぞろえ、販売呼びかけ、勘定精算など商業高校生として得難い経験をしたようです。朝一番から黒山の人だかりで、なれない手つきで電卓をはじく高校生の姿を暖かく見守っていただいたお客様に感謝しています。

おかげさまで、大盛況のうちにイベントを終える事が出来 ました。この場をお借りして、後援団体様、協賛企業・団体 様・協力者各位様、そして実行に携わって戴いたすべての皆 様に心よりお礼を申し上げます。



奈良情報商業高校の海産物販売

今後もこのようなイベントを含め 「60年ぶりにソラ(空)が見えた本町通り」をテーマに住民の方々との「交流」「住みよいまちづくり」「地域の活性」また、将来を担う子ども達に、多くの思い出と豊かな感性を育んでもらえることを目的とした、継続的な活動を企画・実施して行きたいと思っております。

2014ソラほんまち実行委員会委員長: 岡本 健(うるわしの桜井をつくる会常任理事)

## 事務局だより

- ●うるわしの桜井をつくる会事務局の電話番号が変更になりました。 新しい番号は 0744-43-7773(FAX兼用)です。よろしくお願いします。
- ●1月の常任理事会は新春交流会開催により休会とさせていただきます。

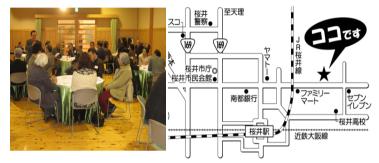
## 第4回新春交流昼食会

大好評でした交流昼食会を来年も開催します。久しぶりの姿や相変らずの姿を見せに やって来て下さい。多数のご参加をお待ちしています。

日時 平成27年1月24日(土)正午より

場所 桜井市粟殿「あるぼ~る」

会費 ¥3,000



### お知らせ

#### ●図書館友の会

12月の読書会は、『遺体』石井光太著を読みます。 あの日3月11日、安置所に運び込まれる多くの遺体、死者の 尊厳を守り抜く、知られざる震災の真実。

日 時 12月16日(火)午後1時30分から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点 問い合わせ先 淺川 肇 TEL:090-1961-6345 友の会会員以外の参加も歓迎します。

●桜井駅南側エリアにおける「まちのビジョンづくり」と 「景観まちづくり」ワークショップ

日 時 12月20日(土)午後1時30分から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点

内 容 桜井駅南側エリアの未来について

主 催 桜井市本町通・周辺まちづくり協議会

問い合わせ先 同事務局 TEL: 0744-42-2607





アーケードが撤去された本町通

後記 協働がスタートして2年になる。一応、形は出来たのだが、どうも官と民の感覚のズレというか、意志疎通がスムーズでないような感じがある。行政には市民を管理・監督したい気持があるのではないか。もしも、そんなことになれば、市民運動の側からも、行政に好かれたい、褒

められたいというグループが出るだろう。そうすれば、これは行政の下請・代行業者になり下がる。ハルカスの『原書展』が大成功に終ったことは喜ばしいが、、ここでも官民の間に不一致があったようで、運営・管理が硬直的・官僚的に感じられる面があった。わたしの個人的な感覚に終われば良いが…… (あさ)

うるわし通信編集責任者 〒633-0091 桜井市桜井142-5-203 淺川 肇

TEL090-1961-6345